

2017年6月23日
日本経済調査協議会

地政学リスクとは何か (中間報告)

双日総合研究所
吉崎達彦

軍事が経済に影響するメカニズム

例:「有事の円買い」

—なぜ北朝鮮がミサイルを撃つと円が買われるのか？

1. 「日本は安全」という海外投資家の認識
2. リスクオフの円買い(リスクオンは円安)
3. 膨大な対外資産(349.1兆円=2016年末時点)
 - 資産合計997.8兆円—負債合計648.7兆円

どこからどこまでが地政学リスク？

- 5月7日 仏大統領選挙→マクロン大統領誕生
- 5月9日 韓国大統領選挙→ムンジェイン大統領誕生
- 5月19日 イラン大統領選挙→ロウハニ大統領再選
- 5月25日 **NATO首脳会議(ブリュッセル)**
- 5月26-27日 **G7サミット(伊・タオルミーナ)**
- 5月29日 北朝鮮が弾道ミサイルを発射
- 6月1日 トランプ大統領が「パリ協定」離脱を宣言
- 6月3日 ロンドンでテロ事件発生。英国では今年3件目
- 6月8日 **英下院総選挙**→与党は過半数割れ
- 6月13-14日 **米FOMC**→今年2回目の利上げ、B/S圧縮へ見通し
- 6月15-16日 **日銀金融政策決定会合**
- 6月16-18日 AIIB第2回通常総会(韓・済州島)
- 6月18日 通常国会が閉会→「テロ等準備罪」などが成立
- 7月1日 香港返還から20周年。習近平氏香港へ？
- 7月2日 **東京都議会選挙**
- 7月7-8日 **G20(独・ハンブルク)**→日中、米中首脳会談も？

地政学(Geo-Politics)とは何か

- 定義の難しい学問
- 政治学 ⊃ 国際関係論 ⊃ 安全保障論 ⊃ 戦略研究 ⊃ 地政学(古典的地政学)
- 世界観→政策→大戦略→軍事戦略→作戦→戦術→技術

以上、奥山真司氏(国際地政学研究所)から

①「国家」の立場から、②「地理」という人間が変えられないものを前提に、③「戦略」を考える学問で、④特に「戦争」に関する思考が中心となる

「地政学リスク」(Geo Political Risks)

- 2002年9月、アラン・グリーンズパンFRB議長(1987-2006)が公聴会で使ったことで有名に
- 数々の名文句
 - 「根拠なき熱狂」"Irrational exuberance" 1996.12
 - 「謎」"Conundrum" 2005.2
- 2002年9月とはどんな時期だったか
 - 9/11テロ事件から1年後
 - 国連安保理でG.W.ブッシュ大統領がイラクを批判
 - 日朝首脳会談(2002.9.17/平壤)



日経新聞朝夕刊に登場した「地政学リスク」

年	記事数	備考
2002	5	「地政学リスク」の誕生
2003	30	イラク戦争で増加
2004	92	イラクでの邦人人質事件
2005	56	
2006	226	北朝鮮が初の核実験
2007	46	
2008	53	「リーマンショック」で減少(ロシアは南オセチアに侵入)
2009	28	
2010	41	
2011	40	「3/11」震災と「アラブの春」
2012	76	尖閣問題あり
2013	85	
2014	393	ウクライナ問題と石油価格下落で一気に増加
2015	122	「戦後70年」で歴史認識の年
2016	105	
2017	219	17年は5月末までの数字

リスクには2通りある

フランク・ナイト(1885~1972)



1. リスク(確率的に計算できるもの)

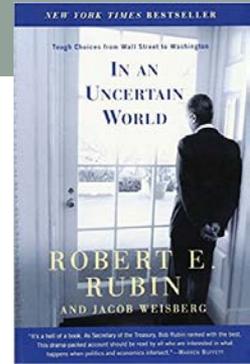
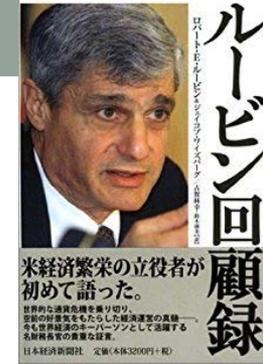
Risks

2. 不確実性(計算できないもの)

Uncertainty

- 完全競争の下では不確実性は排除できない。
- 経営者が不確実性に対処する報酬が利潤である。

Robert E. Rubin “In An Uncertain World” 「ルービン元財務長官の12か条」に学ぶこと



1. **人生で唯一確かなことは、確かなものなど何もないということである。**
2. 市場主義経済は歓迎されるが、それですべての問題を解決できるわけではない。
3. 一国の繁栄のためには、アメリカ合衆国、G7、国際金融機関の援助よりも、その国の政策の信用と質のほうが大切である。
4. 効果的な政策は金で買えるものではないが、**資金を渋るよりは余るほど投入するほうがよいときがある。**
5. 債務者は負債を負うとどうなるか、債権者は融資をするとどうなるかを心しておく必要がある。
6. アメリカ合衆国は、何を支持しているかばかりでなく、何に反対しているかによって評価されることを進んで受け入れなければならない。
7. ドルは非常に重要な通貨であるため、貿易政策の手段として用いるべきではない。
8. **選択肢があることは、それだけで好ましい。**
9. 実現不可能なことを保証するような言い回しは、してはならない。
10. 意思決定においては、小手先の細工を用いてはならない。**真剣な分析と配慮にまさるものはない。**
11. アメリカが国益を維持するためには、国際経済問題に関して、各国と緊密に協力して取り組むべきだ。
12. 現実には理論やモデルよりもはるかに複雑である。

根本的な疑問

なぜ21世紀になって「地政学リスク」が高まっているのか？

(1) 国際情勢

- 国際関係が多極化し、新興国の影響力が増大したこと。逆に言えば、冷戦時代や米国一極時代には、超大国の動きだけを見ていれば用が済んだ。
- グローバル化の進展とともに、安全保障と経済が一体で動くことが増えた。特に急成長した中国は、政治と経済を絡めて動くことが多い。
- アルカイダ、ISISなど行動原理を読みにくい「非国家型アクター」が登場し、小さなグループでも大きな影響力を行使できるようになった。あるいはウィキリークスのように、個人がネットで国家を脅かす事態も生じている。

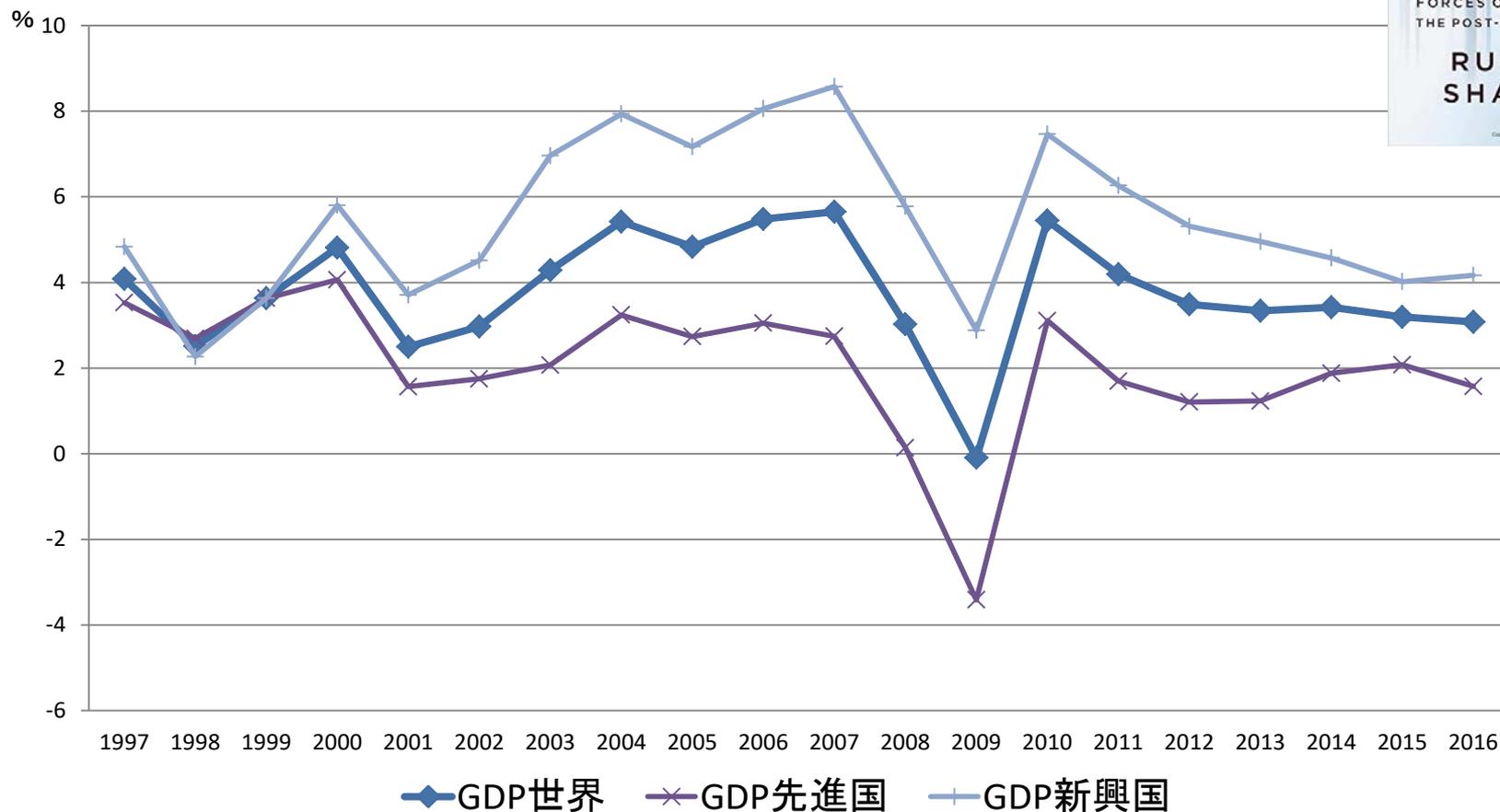
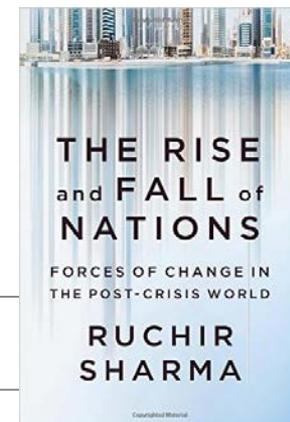
世界は三層構造

	外交・安全保障(イノチ)	経済・金融(おカネ)
①先進国 Developed Countries	Democratic Peace * 内向きの政治 * Followershipの弱体化	G7、OECD * 低成長、低金利、低インフレ * 中間層の没落
②新興国 Emerging Countries	Real Politique * 既成の国際秩序への挑戦者 * 国内政治の不安定化	BRICs、G20 * スロートレード * 中間層の台頭
③フロンティア諸国 Frontier Countries	シリア、北朝鮮など ISISなどテロネットワーク	ベネズエラ、ナイジェリアなど危 ない産油国

(2) 世界経済

- 先進国人口の高齢化に伴い、年金などのファンドマネーが肥大化している。それらが一斉に動くために、市場のボラティリティが上がっている。
- 過去20年に国際的な金融危機を何度も経験したために、為替レートや資源価格の急激な変化によってWinnerとLoserができる事態に各国が慣れてしまった。
- 2008年以降(After Crisis)は世界経済の成長率が低下し、政治的なショックに対して以前よりも脆弱になっている。

世界経済： BCは山谷ありの平均5%→ACはフラットな3%



Source : IMF "World Economic Outlook"

(3) 情報環境

- グローバル化や情報化の進展に伴い、全世界のプレイヤーが「共通のモノサシ」を持つようになっている。その結果、意見の多様性が失われ、市場が一斉にひとつの方向に走りやすくなっている。
- 地政学リスクに対する分析やコンサルを行う専門家集団も誕生している（例：イアン・ブレマー率いる「ユーラシアグループ」）。しかし情報を扱う集団が高度に専門化し、将来を予測することがかえって難しくなっている面もある。
- マスメディアの地位が低下してSNS全盛時代になると、情報源の偏りから「民意の暴走」が起きやすくなる。

“Top Risks 2017: The Geopolitical Recession”

ユーラシア・グループ(イアン・ブレマー氏)

- | | |
|---------------------------------------|----------------|
| 1. Independent America | (わが道をゆくアメリカ) |
| 2. China overreact | (中国の過剰反応) |
| 3. A weaker Merkel | (弱体化するメルケル独首相) |
| 4. No reform | (世界的な改革の停滞) |
| 5. Technology and the Middle East | (中東を脅かすテクノロジー) |
| 6. Central banks get political | (政治に侵食される中央銀行) |
| 7. The White House vs. Silicon Valley | (政府対シリコンバレー) |
| 8. Turkey | (トルコ) |
| 9. North Korea | (北朝鮮) |
| 10. South Africa | (南アフリカ共和国) |

Red herrings (番外=リスクもどき)

US domestic policy, India versus Pakistan, Brazil



地政学リスクと付き合い方方法

1. パワーとマネーの原理の違いを知る(©宮家邦彦氏)
2. 専門家にならない。専門家を使う
3. 歴史を知る(特に近現代史を)